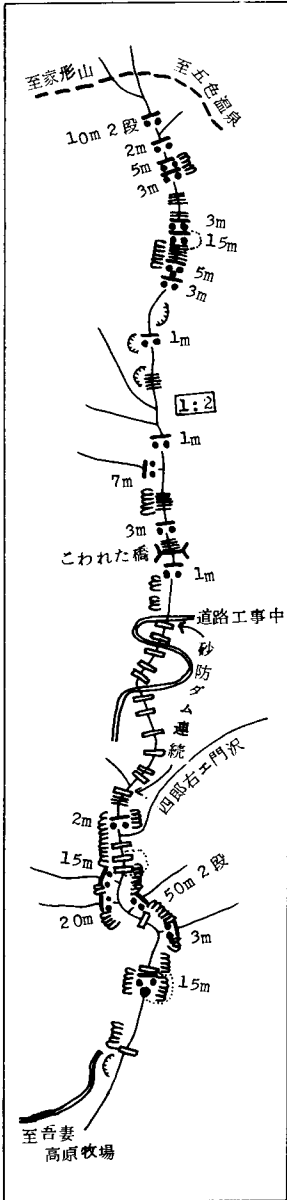


## 高倉沢 (仮称)

一九七八年七月十二日

◆天気 (晴)

前川右岸に高倉山につき上げる三本の沢がある。いずれも距離の割には高度差があり興味をそられる。手はじめにまず高倉沢(仮称)。八時三五分身仕度をととのえて出発。すぐにF1。ここに右岸から合流するルンゼがある。簡単に直登して先に進む。F2も直登するがホールドが細かく意外に手こずった。この上流はナメの連続だ。フリクシヨンのよくきく快適なところだ。九時二分二俣。水量の多い左俣に入る。コケが多くなり典型的



蟹ヶ沢 (作図: )

な源流の様相だ。一番右の沢に入ったがすぐ水流もなくなる。ギンゴ沢の下降を予定していたので左にヤブをこいで稜線に出る。九時五五分。(記)

[タイム]

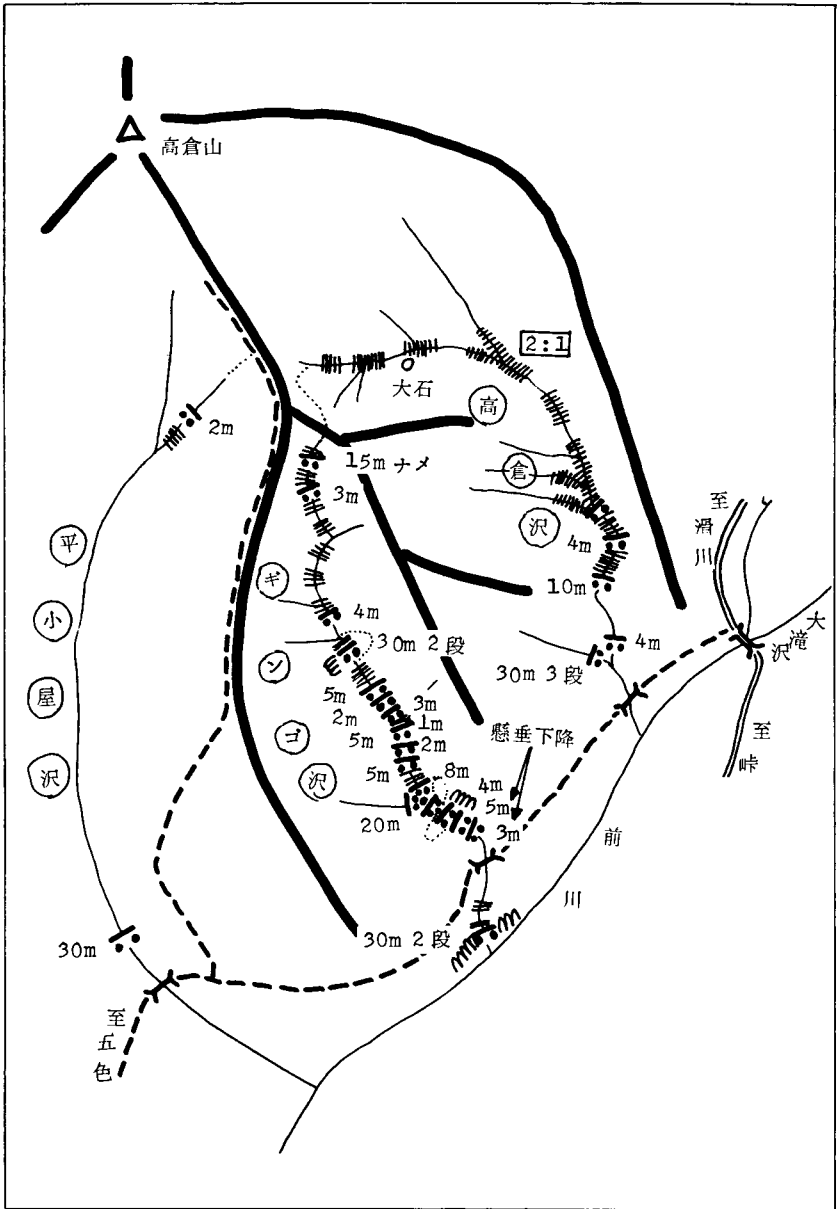
出合八・三五―二俣九・二〇―沢終了・尾根九・五五

## 蟹ヶ沢

一九七九年六月十七日

◆天気 (晴)

四郎右エ門沢に入る渡辺・宍戸両君と共に吾妻高原牧場を越えて林道終点、砂防ダムまで車で送ってもらう。七時二〇分遡行開始。ヤマウドのいっぱい生えた沢筋を



平小屋沢，ギンゴ沢，高倉沢（作図：